



【使徒の働き講解(16) 御霊の知恵を持っていたステパノのように】

本日の聖書本文:使徒の働き6章13-14節/ 暗唱聖句:使徒の働き6章3節

説教者: 鄭南哲牧師

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん! みんな主にあって一週間もお元気でしたか。今日から使徒の働きの講解メッセージも続きたいと思います。16回目です。

世の中には二種類の人があります。温度計のような人と、温度調節器のような人です。温度計はみなさんがよくご存知のように外部の温度が上がれば、自分の目盛り(めもり)が上がりますが、外の温度が下がれば自分お目盛りも下がるように、温度計のような人は自分の中では何の変える力もなく、いつも外の温度によって変わるように、周りの環境や人などによって自分もいつも左右され、反応し、従えるような人であります。このような人は自分の石とは関係なく、外部の条件に反応しながら生きていく人であります。

ところが、温度調節器のような人は、外的要因の影響によって自分が左右されず、自分が周りの環境や人々に影響を及ぼしつつ、回りを変えていく力と調節能力がある人です。

神様も我々の信仰がいつまでも回りの問題や人や環境によって左右され、流され、揺らいでしまう信仰ではなく、どんな状況や環境や人々の中にあっても持っている信仰と変わらない主の御言葉をによって周囲を変えて行く者となるように主は望んでおられるのではないのでしょうか。

引き続き今日の本文では脅かしい環境や命の危機に負われていても恐れず、却って大胆に主の御言葉を伝えながら、周りのかたくななユダヤ人を変えて行っている信仰の人物ステパノという執事が出ています。

ステパノがリベルテンの会堂で福音を伝えた後、それを聞いたユダヤ人たちの反応はどうでしたか。人々を買って、ステパノがモーセと神を冒瀆したと言わせます。偽りの証言の内容は13節に書いてあるとおり、聖殿と律法を汚したということです。ユダヤ人たちはステパノの罪をそのように決めました。聖殿と律法、これがなぜイエス・キリストを証するのにならなくなったのでしょうか? これは旧約聖書とユダヤ人たちを理解するのにとっても核心となる部分です。

<ユダヤ人たちのプライド、律法と聖殿>

ユダヤ人たちの信仰のもとになる思想(しそう)はむかしもいまも同じく選民意識です。ほかのことは扱われてもそんなに大きい問題にはなりません、この選民意識で議論になると耐えられないのがこのイスラエルの民族であります。ユダヤ人たちはいまも昔も神様は自分たちだけの神様だと思っていました。神様が異邦人を作られたのはユダヤ人のしもべとして用いるためだと勘違いしている人もイスラエルの民なのです。

聖書は確かにユダヤ人たちが勘違いしていると伝えています。神様がイスラエルのユダヤ民族を選んで、割礼を通して選民とされ、ほかの民族の脅かしにもかかわらず、何千年の間、存続(そんぞく)させ、あらゆる罪を犯した彼らに慈しみとあわれみを表せてきた理由はどこにあるのでしょうか? 神様がそうされたのにはたしかな目的があります。

ユダヤ人たちは自分たちが中心であり、異邦人たちはユダヤ人たちのためのしもべとして仕えなければならないと思っただけではなく自分たちはいつまでも一番にされるべきだと思ひこんでいましたが、神様はむしろ異邦人のためのしもべとして仕えさせる為にユダヤ人を選んだのです。完全に自分たちの考えと正反対の理由なのです。

神様はユダヤ人をおして律法を与え、ユダヤ人をおしてイエス・キリストを与え、ユダヤ人を通して聖書の福音をくださってユダヤ人の口と手でその福音を異邦人だと言われた世界のあらゆる民族に伝えるようにとされました。結局世界のすべての民族を祝福するためユダヤ民族を通路として選ばれたわけです。

選ばれたユダヤ人たちにとってその証拠として根拠として律法というのは神様から与えられた変わらない唯一の法でした。ですから、律法とは永遠不滅であって、だれも律法について付け加えたり、ほかの話をしてはならないと思っていました。なのに、このユダヤ人たちにステパノ執事はなんと言いますか? 彼らがいままでつかんでいる律法をそのように解釈してはいけないと言います。

<聖殿について>

“聖なるところ”と呼ばれているエルサレム聖殿についてどうですか? ユダヤ人たちは神様はただイスラエルの

民の中にだけ住まれ特に聖殿ささげられる礼拝だけ受け取られると書いていました。これほど律法と聖殿は選民の信仰を持っているユダヤ民族のほこりでした。

ところがステパノはこの聖殿についても違う意見を出しています。7章からステパノの説教が記録されています。聖書に出てくるだれの説教よりも詳しく、具体的に記録されたステパノの説教をまとめると次のようです。

“あなたがたの先祖であるアブラハムは律法がある前に存在した人であり、聖殿がある前に神様の御前で礼拝をささげた人である。ですから、あなたがたがいまそんなに大切にしている律法と聖殿を持ち出して神様の御前で選ばれたと思っているのは間違いである。” 続けて“神様はモーセをとおしてユダヤ人に律法を与えてくださったが、律法をいただいてからこんにちまでのイスラエルの歴史を見てみる。律法をちゃんと守られたのか？いままで神の律法を逆らいながら神の御いかりをつんだだけではないか？自分たちを選民だと思っているその考え自体が高慢であり、かたくなな民族である。律法をいただいた選民だと威張っているあなたがたはその律法をもってあなたかたの罪を罪だと言っている預言者たちをどうしたのか？いままでその義人たちへの迫害でどんなに多くの血が流されたのか？”

ステパノの説教は彼らの痛いところばかりを刺されました。ユダヤ人たちが誤解しているこのところがやぶらなければイエス・キリストを心から信じ受け入れることはできないことを知っていたからです。

選民であるという高慢をおろして主にひざまずかなければ、そしてその高慢のため神の御子イエスキリストを十字架につけて死なせた事を悔い改めなければ、神様の福音は彼らに入れなかったことをステパノは霊的に見抜いていたのです。

ステパノ執事はイエスキリストが律法の完成者だと強調しました。イエス様が来られたことによって律法に含まれている神の正義を完成させ全うされたからです。

そして、聖殿とイエス・キリストの関係はどうやって説明しますか？

“石で作られたこの建物が神様のおられる聖殿ではなく、イエス・キリストご自身こそがまことの聖殿である。ですから、イエス様を心に受け入れた者はだれでもみな神様の聖殿であり、どこでも礼拝できるはず。イエス様は罪人を招くために来られた。いくら選ばれたアブラハムの子孫であっても、人間はみな罪人である。イエス様は全人類のための救い主である。ですから、あなたがたもほかの民族のように悔い改めてイエス・キリストを信じて、救いを得なさい。”

ステパノ執事はユダヤ人たちが代々命をかけて守ってきた律法と聖殿をおろして、イエス・キリストを信じて救われなさいとチャレンジをしたわけです。そういうわけで、当然、ユダヤ人たちは歯ぎしりをしながら、ステパノを殺そうとしたのです。

<聖霊の知恵をもった人の特徴>

愛する信仰の家族のみなさん! どうやってステパノ執事がこんなに卓越した説教者になれたのでしょうか。

ただ信徒だった彼が、イエス・キリストを正確に伝えることができた理由はなんでしょうか。論理的にも、確信的にも、聖書の知恵でもユダヤ人たちがステパノに勝てなかった理由はなんでしょうか？

それは‘知恵と御霊’によって 語ったからです。(6 ; 10) つまり 聖霊の知恵によって語ったという意味です。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!

聖霊の知恵をいただいた人には大切な特徴があります。その一つは聖書をとってもよく知っているということです。

7章2節から見るとステパノは旧約を始めから全般的に話しています。これは普段、彼が神様の御言葉をよく読み、聖書の知識を持っていたことがわかります。聖霊の知恵があれば、何よりも神様の御言葉を愛し、御言葉を近くに置いて読むようになります。神様の御言葉を学ぶのに熱心になります。我々はよく、聖書の知識は神学生や牧師たちだけでよし、信徒はただできた説教を聞くだけでよしと思う傾向があります。みなさんは旧約聖書をどれくらい知っていますか。新約聖書についてどれくらい読んで知っていますか。

ステパノ執事は旧約聖書をとおしてイエス・キリストを発見しました。反面、多くの書記官やパリサイ人たちは旧約を数千回読んだり、暗記してもその中からイエス・キリストを見出すことはできませんでした。それは‘聖霊の知恵’がなかったからです。ステパノはユダヤ人たちがよく知っている旧約からイエス・キリストを見出すことができたため、大胆に証することができたし、論争しながら説得することができ結局はユダヤ人たちの論理に勝つことが出来たのです。

みなさん!こんにち今の時代のためイエス・キリストを伝える証人である私たちはどこからイエス・キリストを見出

して証すべきでしょうか？それは神様の御言葉から見出したイエス・キリストを伝えなければなりません。だれかから聞いた話だけではいけません。さらに、自分が経験した証だけを持ち出して話だけではいけません。なぜなら、そういった話はみな人によって違うからです。

聖霊様の智恵はステパノに真理の知識に留まらず、よく悟らせてくださいました。聖書の内容を知っているのと、真理を悟ることも確かに違います。ステパノの説教が全部である7章をゆっくり黙想しているととても大切な真理を教えてくださいます。

聖書の真理を悟るためには我々の心がまずきよめられなければならないのです。現代人たちは心があまりにも複雑であるのではないのでしょうか。複雑で、多くの雑念の中でも騒がしています。心を静まって、きよくし聖霊の知恵を求め、準備し神様の御言葉を読んで下さい。（第一コリント12:8：“ある人には御霊によって知恵のことばが与えられ、ほかの人には同じ御霊にかなう知識のことばが与えられ”）聖霊様がかならず助けてくれます。

使徒パウロはいつもコロサイの教会の人々に御霊の知恵クリスチャンになれるように祈りつつ、勧めました。“こういうわけで、私たちはそのことを聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り求めています。どうか、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころに関する真の知識に満たされますように。”

主が来られた後の一世紀の人だったステパノ執事が神様の御言葉によってその時代のユダヤ人たちの問題をさらけだして、チャレンジしたなら、今日21世紀を生きる我々はどうするべきでしょうか？

現代の文明世界（ぶんめいせかい）の中で自分を失ったまま流されていく人々にイエス・キリストを答えとしてどうやって提示すればいいのでしょうか？そうするためには まず、我々がそれをまず知らなければなりません。悟らなければなりません。悟るためには聖書を読みながらひざまずいて祈らなければなりません。

ステパノに与えられた聖霊の知恵を持っている人がいまの時代はなぜ少ないのでしょうか？信徒としての指導者が切実に必要とされているいまの時代、聖書の情報や知識はたくさん持っている人は多くいても、なぜ聖霊の知恵があるような人がなかなかよく見えてないのでしょうか。いつでも聖書を読めることもできるし、一人でも参考にする聖書の資料や本もたくさんあり、教会でも聖書を自由に学べるのになぜでしょうか？

エストニアという国ではこのようなことわざがあります。“物事を学べる一番近道はその事をやってみる事しかない”と。実際ステパノ執事が主の御言葉と祈りの中で聖霊の知恵を求め、頂いたように今日我々もそのようにやってみれば今も生きておられ、我々のうちに働いておられる聖霊の神が聖霊の知恵に満ちたクリスチャンになれるため助けて下さると信じます。主の真理の御言葉をただ知識で読むわけではなく、実際聖霊の知恵をいただく目的のために祈りつつ読んで見て下さい。ただ自分の願い事がかなえられるためばかり祈るのではなく、聖霊の知恵を頂くために祈って見ませんか。

人々からきずつけられ、裏切られ、様々な痛みを経験しながら飢え乾いたまま生きていたサマリアの女にイエス様はご自分を‘生ける水’として紹介しました。（ヨハネ4:14）‘永遠のいのちへの水’だと言われたのです。その女の必要に応じて提示されたのです。我々の周りの人々を振り返って見ましょう。それぞれ置かれている状況はみな違います。決して、自分とみなは同じではないので、むやみに比較したり、判断してはいけません。

ですから、聖霊のくださる知恵の心と目で一人一人みるように求めましょう。そして、その人にイエス様はどんな意味になるのか御言葉をとおして教えられ、適用できるような力と理解力をいただかなければなりません。これが我々に必要なことではないかと思えます。なぜなら我々は21世紀をまかされたステパノたちだからです。

願わくはクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族我々みなも聖霊の智恵をいただいた者になって神様の御言葉によってこの時代を照らし、人々にはイエス・キリストの真理の御言葉で救いを提示できる聖霊の知恵を持ったステパノたちとなりますよう御名によって祝福し、切にお祈り申しあげます。アーメン！